

本校では、学校教育目標である「自らを鍛える～夢と志を育む学校～」を具体的な形に現すために、「価値あるものへの憧れ」「価値あるものへの挑戦」「役に立つ喜び」を合い言葉に、より質の高いものを求めて互いに切磋琢磨し合うことができる学校づくりをめざしています。また、全校33名という小規模校のメリットを生かしながら、教師と生徒が一体となった活動を展開しています。

1. 「価値あるものへの憧れ」

1～3年生のすべての学年において、宿泊研修を実施しています。1年生は八百津研修の際に、杉原千畝記念館を訪問し、多くの人々の命を救った杉原氏の思いと決断に触れます。2年生は若狭研修の際に、敦賀ムゼウムを訪問し、当時の敦賀市の人々がナチスから逃れてきたユダヤ人の滞在を手助けした事実を知り、その温かい心に思いをはせることで、驚きと感動の心を持ちます。3年生は東京研修の際に、千畝氏の功績を語り継ぐ杉原美智さんの講話を聞くことで、彼の行動の偉大さと生き方に強い“憧れ”を持つこととなります。



▲ 東京研修 杉原美智さんと

2. 「価値あるものへの挑戦」

さまざまな学校行事を通して頑張ることへの価値や充実感を育むことを大切にしています。

1年間を6つのステージ(①出会い ②体験 ③挑戦 ④団結 ⑤充実 ⑥感謝)に区切り、段階的・系統的に生徒の自主的・自治的能力を育成しています。特に7月の挑戦ステージでは、委員会活動や生徒会活動を通して、リーダーが活躍し、成功体験を積み、どんどん自信をつけていきます。本年度は、中体連夏季大会に向けての各部の積極的な練習の姿や、夏休みの星空コンサートへ向けて合唱練習に取り組む姿、体育祭へ向けての準備など、さまざまな場面において、“挑戦”する姿が見られました。9月12日の体育祭について、納土校長が「これまでの天気が嘘のように晴天に恵まれました。少人数で取り組む本校の体育祭は、競技はもちろんのこと、準備や進行など一人一人がいくつもの役割

を果たすこととなります。仲間のために自分の役割を果たそうとする姿は、まさに感動を与えてくれました。大会当日、怪我のために競技に出場することができなくなった実行委員長、声が出なくなった応援団長など。それでもみんなのためにその責任を果たそうとする姿や、それを支えようとする姿は、まさに東部中学校の財産だと言えます。」(東部中学校だより10月号より)と述べたように、生徒全員が価値あるものへの大きな“挑戦”をすることができました。



▲ 体育祭を終えて(集合写真)

3. 「役に立てる喜びを実感できる活動」

1～3年生の宿泊研修において、現地の福祉施設を訪問し、福祉体験活動に取り組むとともに、東部三地区の方々との交流を積極的に行っています。地域行事(八百津坂花壇整備・夏祭り・地区運動会など)のボランティア活動に積極的に参加したり、お年寄りの方々との交流も積極的に進めています。手紙や葉書による交流や体育祭・合唱祭などの学校行事の招待状も送っています。

また、地域の福祉施設への訪問活動にも力を入れています。本年度はこれまでに「夢眠」「しおなみ苑」を訪問し、伝統である「合唱」も披露しました。そして、本年度は初めて福地において「ふれあいコンサート」を実施しました。



▲ ふれあい駅伝



▲ ふれあいコンサート(福地)

また、前期生徒会の集大成である「ふれあい駅伝」を実施し、久田見地区のみなさんの温かい声援の中を生徒全員が襷をつないで駆けぬけました。このように地域に関わり「ふるさと」のために活動することで、“役に立つ喜び”を日々噛みしめています。

地域のみなさま方の応援を、さらに前進する力に変え、今後も「自らを鍛える～夢と志を育む学校～」に向け力強く歩んでいきます。